



JBCF

JAPAN BICYCLIST CLUB FEDERATION

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

2017年度事業活動方針 発表会

於:目黒自転車総合ビル
2016.12.10

JBCF 基本方針

継続
Keizoku

拡大
Kakudai

向上
Koujyou

JPT〈Japan Pro Tour〉を日本トップカテゴリーの
最高峰ロードレースとして、その価値を高める

それがプレステージを高め、東京オリンピックを目指すうねりが
ファンを創出、競技人口の拡大に繋がり
クラスタ制度とランキングで
50年の歴史魅力ある連盟運営
よってロードレースをメジャースポーツに近づける

2017年 JBCF活動方針

JBCF 3K キーワード相関表

継 続

50周年胎動
伝統
信用・信頼

自治体の参画
長期スポンサー
開催安定・確実性
JBCFレガシー=IT

拡大

多様化
全国開催
複層化・拡充

登録の柔軟性・蓄積
開催地勧誘拡張
加盟登録増加

向上

環境持続配慮
競技運営力
情報発信力

Japanese Way
国際レベル審判
高度な情報進化IoT
先見性・動向に追従

JBCF 50年の歩み

- 1966年6月 日本自転車工業会(現自転車協会)・自転車産業振興協会支援で
“第1回自転車業界親善ロードレース大会”が実車連の前身としてスタート
- 1967年3月 日本自転車工業会・企業が中心となり”**全日本実業団自転車競技連盟**”創立
- 1968年3月 **通産大臣旗下賜**“通産大臣旗・第1回全日本実業団対抗ロードレース大会”開催
- 1972年～ 実業団からオリンピック選手多数輩出、モントリオールで長義一 6位入賞。
その後毎大会選手派遣。
- 2001年 加盟チーム128チーム、加盟登録者数1122名、初めて**1000名を超える**。
- 2011年1月 従来の任意団体から“**一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟・JBCF**”
となる。連盟の基盤強化 連盟方針 “JPTの価値UP” 目指しスタートする。
- 2011年3月 事務局スタート直後、東日本大震災で中止大会あったが代替、追加で完遂。
- 2011年 連盟法人化後、加盟登録者**数2000名を超える**、10年で**倍増達成**。
- 2012年～ コンチネンタルチーム、地域密着・貢献型チームの増加傾向
- 2016年 加盟登録者2900名をこえる、リオ五輪JBCF関連選手**4名出場**、
- 2017年 創立50周年の年、
JPTコンチネンタル申請**9チーム**、国内コンチ全チームが申請、JBCF登録へ
JPTレースの**Two in One** レースは10～開催、23レース(13会場)となる予定
開催拡大・向上へ、公道レース、ステージレースなど、UCIレース導入の布石

2017年度JBCF 活動方針

実業団創成期の雑誌・新聞記事

第一回全日本実業団対抗サイクルロードレース 1967. 3. 23 於:船橋



1967.4.15. 発刊

2017年度JBCF 活動方針

JBCF大会・最近のレースシーン

左:南魚沼 中央:伊豆ベロドローム 右上:宇都宮クリテ



2017年 JBCF活動方針

魅力ある連盟 (50周年胎動の年・原点回帰)

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPT、世界を
メジャースポーツへの挑戦(魅せるレース、やる試合)

1. JPT価値を創造、向上させる

Jツアー制度ステップアップ、国際化(UCIレース導入)
多様性の融合 *Japanese Way*が独自の進展・新時代

2. 情報発信力がツアー向上を招く

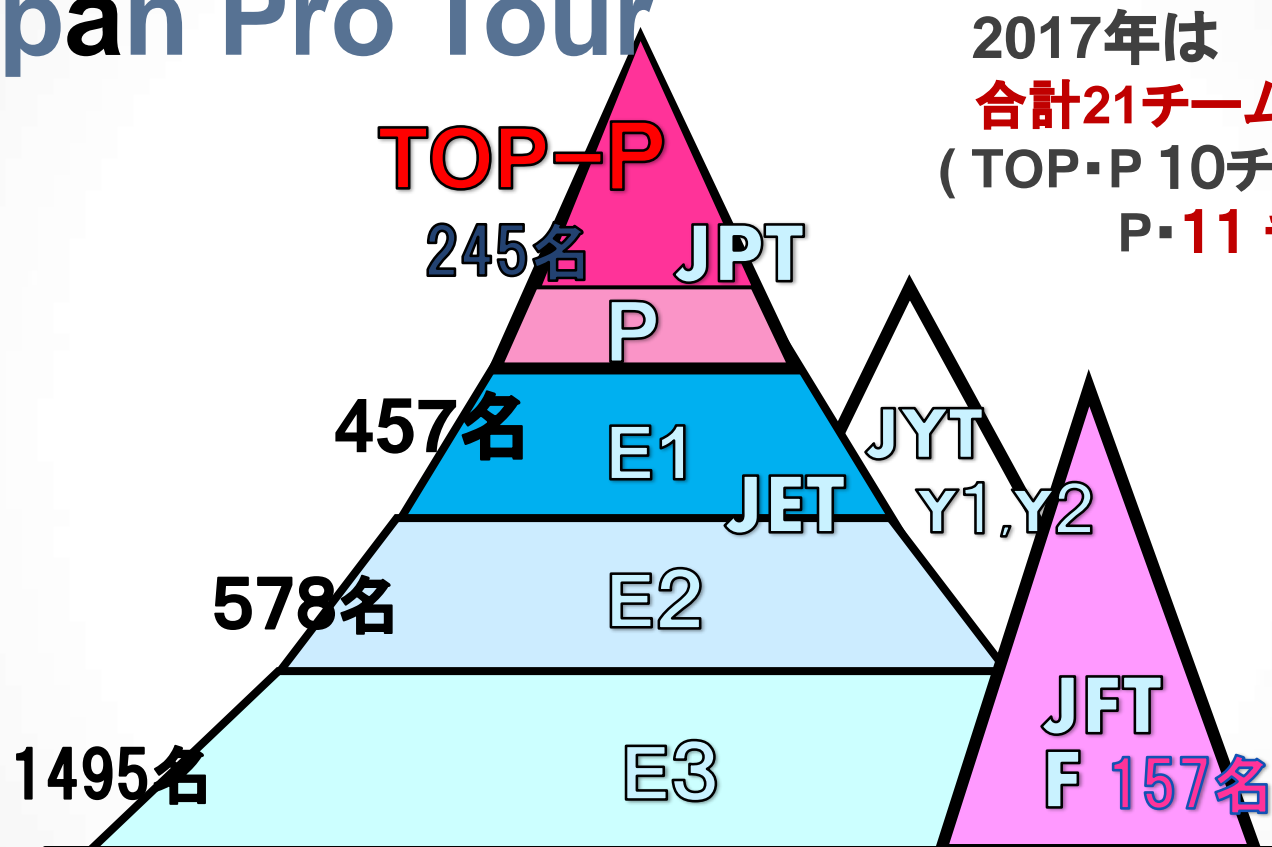
メディアミックス・即応・頻度・効果検証(文字～動画)

3. オーガナイザー 機能の充実(本部・事務局の進化)

・Web・IEの活用とデータベース駆使のサービス網展開
持続可能な地球環境に配慮した推進

JPT を日本国内トップカテゴリー最高峰の
ロードレースとして、その価値を高める

Japan Pro Tour



2017年は
合計21チーム
(TOP-P 10チーム
P-11チーム)

エントリーライダーも越えられるハードルとし、JBCF登録導入図ってゆく

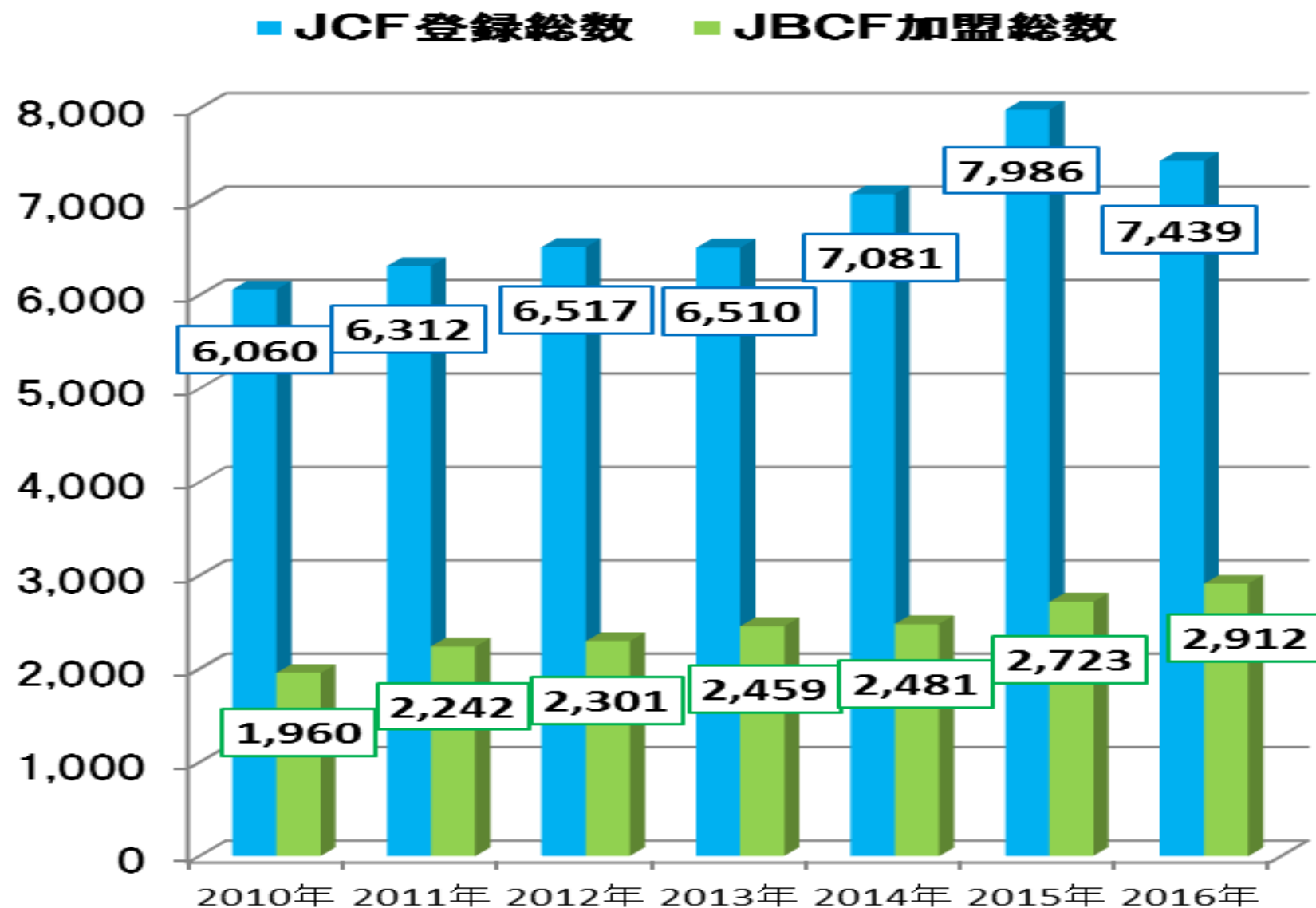
2017年 JBCF活動方針

クラスター別加盟者 年度推移2014~

クラスター	2014	2015	2016
P-1 プロツアー	228	244	245
F-1 フェミニン	110	144	157
E-1 エリート	368	400	437
E-2 //	501	534	578
E-3 //	1270	1401	1495
Total	2477	2723	2912



2017年 JBCF活動方針



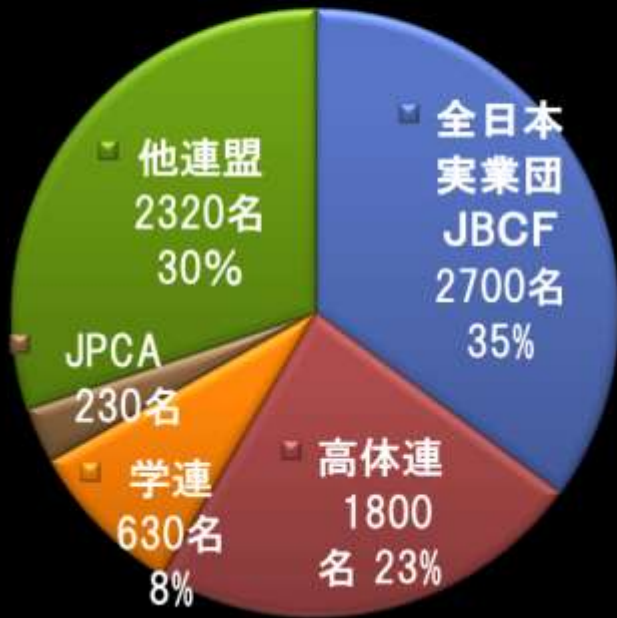
JCF 全国組織登録者分布グラフ

JCF登録者数の内訳 2015年度

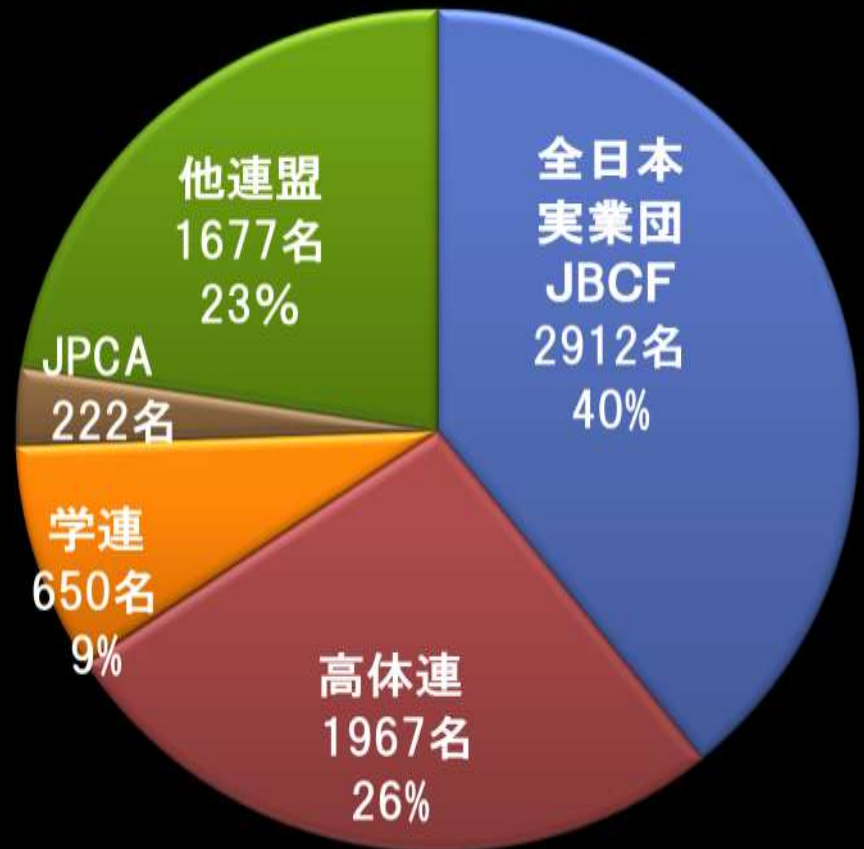


JCF登録者数の内訳 2016年度

JCF登録者総数 7700



JCF登録者総数 7428名



2017年 JBCF活動方針

1.メジャースポーツへの(魅せる、楽しいレースへ、スターを輩出、)
挑戦 *Japanese Way* でツアーを進化させ:JPT価値向上

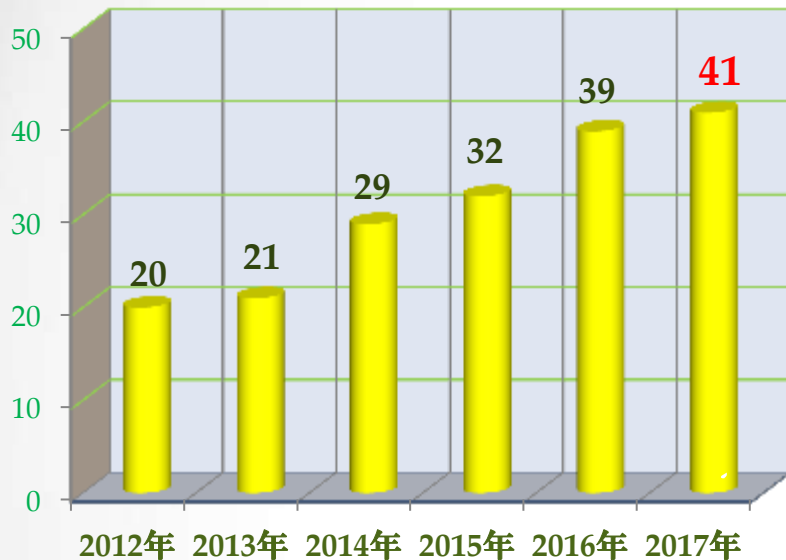
- JPT進化
- JPT価値向上・2018年へ**Jプロツアー、プロジェクト**の開始
 - 企業・地域・クラブ型各種チームの融合、シナジーがチーム力
 - UCIコンチネンタル**チーム登録**日本のポイント獲得支援を
 - チーム法人**の義務化で、契約主体者、チーム・選手の安定化

- 大会運営
- ゼネラルディレクター**活動、開催基準推進で大会魅力・価値づけ
 - Two In One** 大会、日本ならではのレース最適化、露出、公道増加
 - 競技役員のステップアップ(プロツアーに相応・しい、らしさ、スキル)

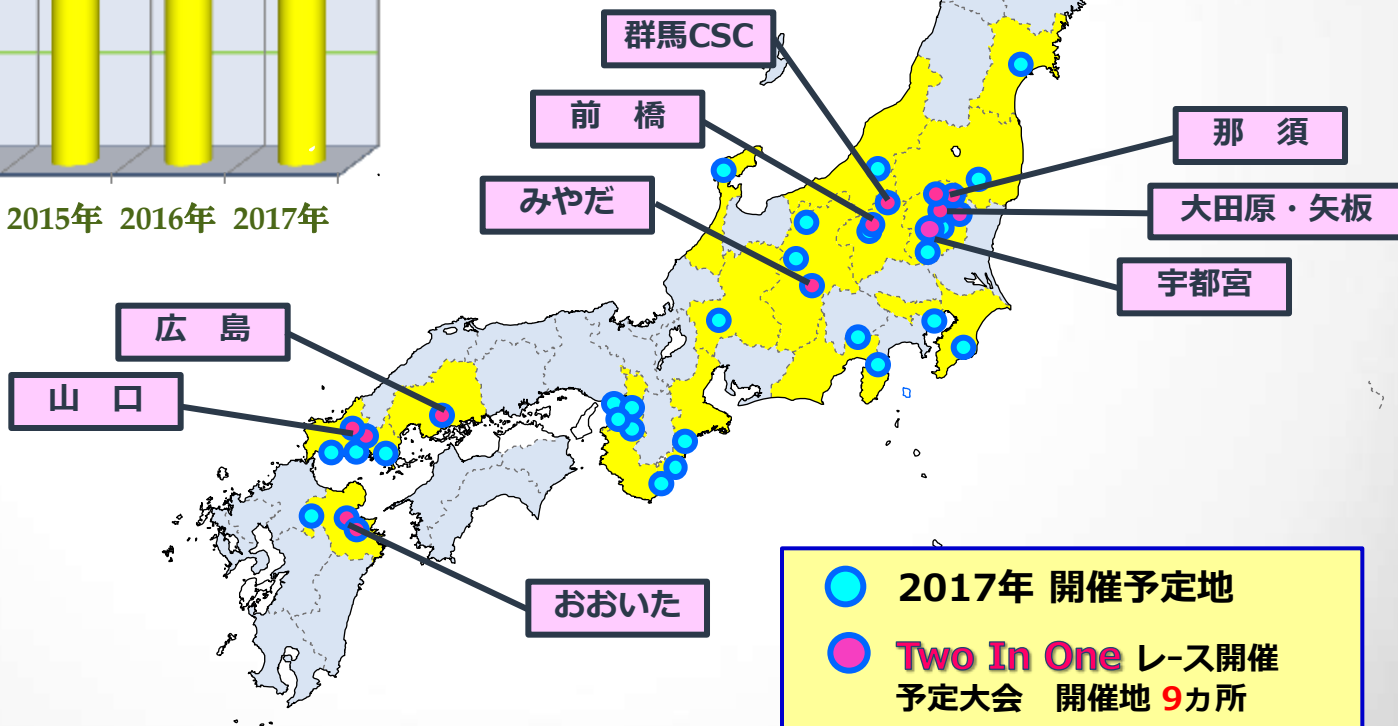
- レース運営
- メリハリの利いたポイント配分QA(AAAA)レースの新設
 - UCIレース**の開催・胎動(開催地と連携、国内**UCIポイント獲得**)
 - 安全第1運営**の徹底メディカル部会の尊重、競技運営委と連動
 - 健全な連盟(A・ドーピング活動周知、環境配慮、気品ある行動)

2017年 JBCF 活動方針

2017年開催地予定地 41カ所



全国各地でのレース開催拡大
Two In One レースを目指して



2017年 JBCF 活動方針

JPT *Japanese Way* チーム集合体

Japan Pro Tour

UCIコンチネンタルチーム

ファクトリー
チーム

地域密着
貢献チーム

クラブ型
チーム

それ以外
JBCF等

Japanese Way 異質の融合がシナジー

R. プロ選手
海外選手

セミプロ選手

フルタイム
ワーカー

多様な混在の中での実戦強化
JBCF50年の進化

レース
強化
海外戦

ファン
サービス

交通安全
社会貢献
大会開催

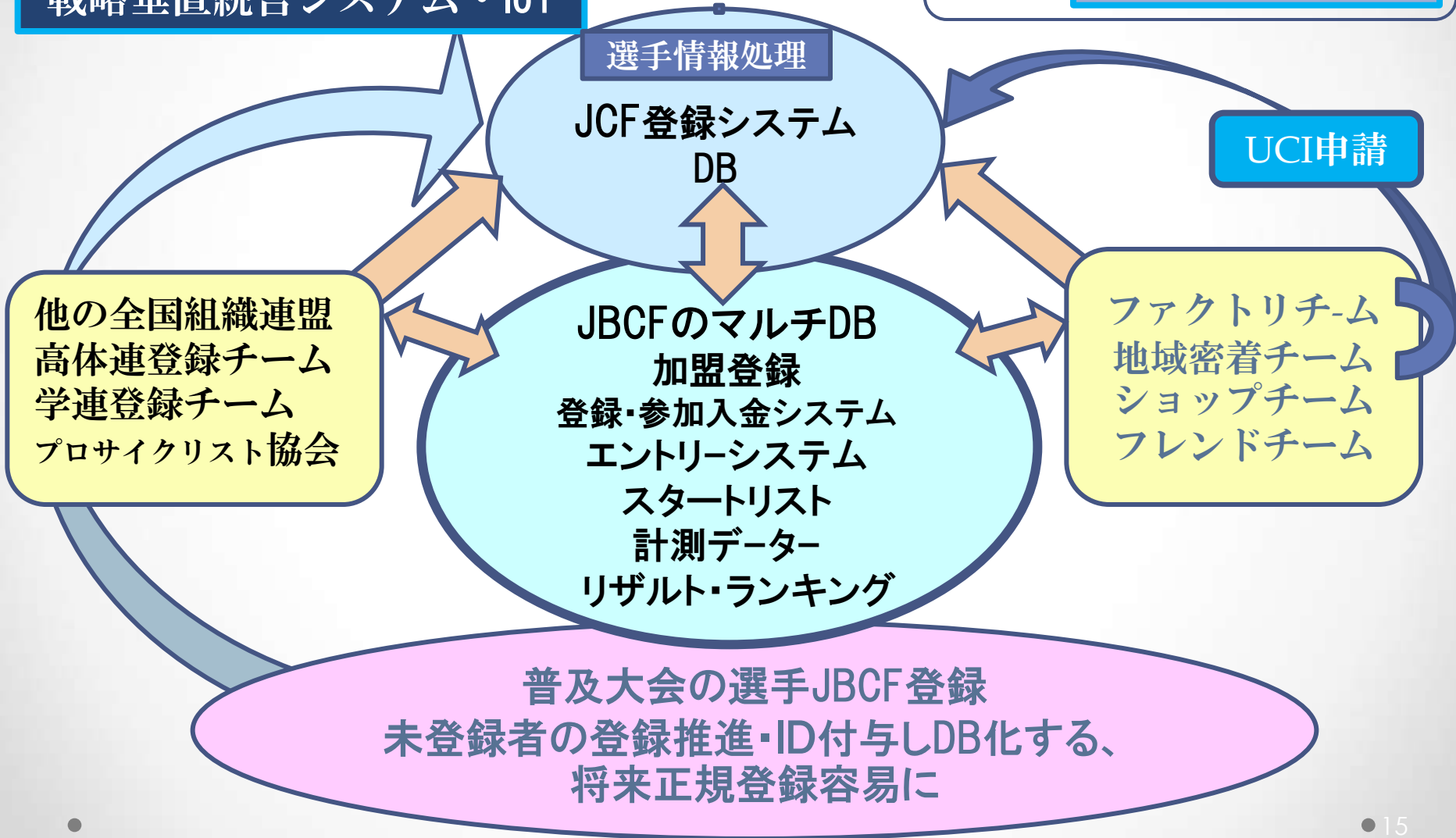
ワーク
スタディ

2017年 JBCF活動方針

JBCFを取巻く 情報ネットワークの構築と将来

戦略垂直統合システム・IoT

選手登録&加盟・登記
チーム登録



2017年 JBCF活動方針

2. 情報発信力の充実がツアーの向上

広報強化:メディアへの露出(企画広報委の最重点課題)

露出度アップはメディア環境に対応・順応(新分野開拓・モバイル等)

- メディア環境の変化をウオッチ・即応性・効果検証
- メディアミックス・頻度・効果検証(文字～動画)
- J Sports と制作協力**、欧州放映にダイジェスト版即応
- 新Abema Fresh, TV**の試行から導入、動向把握、
- 連盟HPの拡充(ファン誘導のJPTサイト、レスポンス対応)

広報と大会運営に**ゼネラル ディレクター制**を2016年から導入

- ゼネラル ディレクターが大会演出と露出のバランスを
- 広報活動に投資・大会仕様の充実にスポンサーの支援

国内最大規模ロードレース シリーズ戦 「Jプロツアー 2016」 J SPORTSで全戦速報ダイジェスト放送!

Jプロツアー-2016 概要

会場	開催日	レース名	放送予定	Jプロツアー-露出 放送レース(LIVE)
栃木県宇都宮市	3月20日	①第3回 JBCF 宇都宮クリテリウム	→ 3月27日	ハント〜ウェヴェルヘム
岐阜県関ヶ原町	4月10日	②第7回 JBCF 伊吹山ドライブウェイヒルクライム	→ 4月10日	パリ〜ルーベ
旧南紀白浜空港	4月16日	③第5回 JBCF チームタイムトライアル 南紀白浜	→ 4月17日	アムステルゴールドレース
	4月17日	④第6回 JBCF 白浜クリテリウム		
群馬CSC	4月23日	⑤第8回 JBCF 群馬CSCロードレース Day-1	→ 4月24日	リエージュ〜バストーニュ〜リエージュ
	4月24日	⑥第8回 JBCF 群馬CSCロードレース Day-2		
広島中央森林公園	7月2日	⑦第50回 JBCF 西日本ロードクラシック 広島大会 Day-1	→ 7月3日	ツール・ド・フランス
	7月3日	⑧第50回 JBCF 西日本ロードクラシック 広島大会 Day-2		
福島県石川町	7月17日	⑨第15回 JBCF 石川サイクルロードレース	→ 7月17日	ツール・ド・フランス
東京都 シンボルプロムナード公園	7月31日	⑩湾岸クリテリウム2016	→	
長野県宮田村	8月6日	⑪第2回 JBCF みやだ高原ヒルクライム	→ 8月28日	プエルタ・ア・エスパーニャ
	8月7日	⑫第8回 JBCF みやだクリテリウム		
山口県山口市	8月27日	⑬第1回 JBCF 藩庁門タイムトライアルinやまぐち	→	
	8月28日	⑭第1回 JBCF 維新やまぐちクリテリウム		
栃木渡良瀬遊水地	9月11日	⑮第6回 JBCF タイムトライアルチャンピオンシップ	→ 9月11日	プエルタ・ア・エスパーニャ
群馬県前橋市	9月24日	⑯第1回 JBCF 前橋クリテリウム(予定)	→ 10月1日	イル・ロンバルディア
	9月25日	⑰第1回 JBCF 赤城山ヒルクライム		
石川県輪島市	10月9日	⑱第9回 JBCF 輪島ロードレース(第50回経済大臣旗)	→ 10月9日	パリ〜ツール
新潟県南魚沼市	10月15日	⑲第2回 JBCF 南魚沼タイムトライアル	→ 10月22日	未定
	10月16日	⑳第50回 JBCF 東日本ロードクラシック 南魚沼大会		
大分県大分市	10月29日	㉑第3回 JBCF おおいたサイクルロードレース	→ 10月30日	未定
	10月30日	㉒第3回 JBCF おおいたいこいの道クリテリウム		



(左) Jプロツアー-2015 年間総合個人優勝 畑中雄勇介 (チーム右京)
(右) Jプロツアー-2015年間総合個人U23優勝 新城雄大 (那須プラーゼン)



Jプロツアー-2015 第22戦 美浜クリテリウム 畑中雄介、優勝の瞬間

J プロツアー-チーム価値の STEP UP

2017年JPT 加盟登録規定(抜粋)

- ・チームは**法人化**されており選手との契約関係が明確にされている
- ・チームは加盟分担金(百万円)を負担しており、参加料は全レース免除
- ・チームはロゴ・エンブレム作成、チームジャージ、チームカー等に活用
- ・チームカーをイメージデザインで露出、TOP-Pは会場により2台駐車可とす
- ・チーム名のプリントされた最低1個のチームピット(3×3m)を保有
- ・JPTチームスタッフはT・アテンダント講習、コーチ、指導員等**資格1名以上必須**
- ・登録人数は下限枠内の選手4名から16名・Min出走人数3名以上
- ・各チームは連盟の広報・宣伝活動に協力をする

2017~18年のプロツアーのイメージ

- ・創立50周年、**新ステージへ胎動**、プロレースに相応しい運営レベルに進化
- ・厳選大会(Two in One)をJPTのレースとしツアー-戦(転戦)を展開
- ・上記にUCIレースの導入、連盟・チーム・選手の価値をグローバルに運用 ●18

これからの新規取組概要

- ・連盟創立50周年を迎え、記念事業(記念誌発行など)
- ・2018年UCI公認ロードレース開催に秒読みステップ
- ・ポイント付与を改訂QA(AAAA)の新設、新ポイント配分
- ・2日間同地開催大会(Two in One)とトップポイントの設定
- ・JPT価値向上へプロジェクト、JPT元年の思いでスタート
- ・安全優先レース運営、安全ルール講習(動画による解説)
- ・ワイルドカード、海外、Jナショナル(U23)、との交流戦進化
- ・各種チーム・スタッフ講習会の義務付けを徹底してゆく

2017年 JBCF 登録申請スケジュール

JPTの登録は、JPT年間ランキング上位15チームにシード権が与えられる。

2016年のシード権チームと非シードチームのJPT参入希望チームから総チーム数は22チームを選出する。なおエリートでTOP-EとしてJPTチーム登録を希望するチームにはシード権付与

2016年10月29日(土) 2017年JPT参入チーム登録条件発表

10月31日(月) ~JPT問い合わせ窓口開

11月 9日(水) ランキング上位15チーム確定、非シードチーム受付開始
(11月5日幕張クリテリウムの結果も加味してよい)

11月20日(日) チーム登録申請締め切り

11月24日(木) 選考会議(JBCF理事会)

12月10日(土) 2017年連盟方針発表会(シード&選考チーム概要発表)

場所: 自転車総合ビル(予定)

時間: 11:00~13:10 メディア関係者・チーム紹介とチームプレゼン

13:30~14:30 チーム関係者、後援・協賛団体・競技関係者

14:40~15:40 交流会

2017年 1月 5日(木) F,E,Y加盟登録受付開始

~1月31日(日) 加盟登録締め切り

3月〇〇日 Jプロツアー第1戦開催(〇〇〇〇)